今期と来期を通して回復傾向の業種はなく、厳しい状況が続く！

― 2017年3月～6月期　中小企業景況調査報告書概要―

日銀が7月3日に発表した6月の企業短期経済観測調査（短観）によると、企業の景況感を示す業況判断指数（D・I）は、大企業・製造業で前回の3月調査のプラス12から5ポイント改善しプラス17となった。改善は3四半期連続で、2014年3月以来、3年3ヶ月ぶりの高水準となった。大企業・非製造業の業況判断指数は前回のプラス20から3ポイント改善し、プラス23となっている。中小企業・製造業の業況判断指数はプラス7となり前回のプラス5から2ポイント改善した。これで4四半期連続して改善となっている。中小企業・非製造業も前回のプラス4から3ポイント改善してプラス7となっており、こちらも4四半期連続で改善している。大企業・製造業の業況判断D・Iの業種別の動向は、鉄鋼がオリンピックに向けた建設需要や中国など海外需要向けが好調で大きく改善し、電気機械と生産用機械も改善している。大企業・非製造業は、建設が再開発需要などで堅調に推移し、旅客も訪日向け需要が持ち直し、さらに消費回復で小売りも改善している。3か月後の先行きの見通し(本年9月予測）は、大企業・製造業がプラス15と今期より2ポイント悪化、大企業・非製造業もプラス18と今期よりも5ポイント悪化すると予測しており、人手不足や海外情勢の不透明感に対する懸念があると見られる。中小企業においては、製造業が今期より1ポイント悪化しプラス6、非製造業は5ポイント悪化しプラス2と予測しており、大企業・中小企業とも製造業よりも非製造業の方が悪化幅大きくなると見込んでいる。

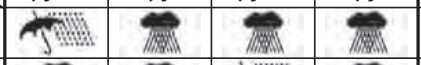
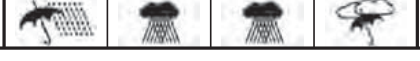
内閣府が6月22日に発表した6月の月例経済報告においては、国内景気の基調判断を「景気は、緩やかな回復基調が続いている」として、前月までの「一部に改善の遅れも見られるが、緩やかな回復基調が続いている」から上方修正した。判断を引き上げるのは6ヶ月ぶりのことである。個人消費、設備投資、住宅建設、公共投資の4項目で判断が引き上げられている。

商工会地域の景況調査においては、今期（2017年4月～6月）の業況に関するD・I値は、製造業が前期より25.7ポイントと大幅に改善しマイナス18.1、建設業が4.6ポイント改善しマイナス13.6、小売業が12.5ポイント改善しマイナス32.5、サービス業が31.5ポイントと劇的な改善をしてマイナス12.5となっている。前期は製造業、小売業、サービス業が悪化し、建設業のみが改善していたが、今期は、全業種が改善に転じている。さらに、製造業、建設業、サービス業のD・I値はマイナス10台となっており、今までにない高水準となっている。来期（2017年7月～9月）の業況予測については、製造業が今期に比べて7.0ポイント改善しマイナス11.1、建設業は今期の改善幅を超える18.3ポイントの悪化となりマイナス31.9、小売業は0.9ポイント改善しマイナス31.6、サービス業は、今期と同じ水準のマイナス12.5となっており、建設業のみが今期より悪化すると予測している。

商工会地域の景況感は、今期は全業種が前期に比べて改善しており、連続して改善している建設業以外は、二桁以上の大幅な改善を示している。さらに、来期予測も建設業以外は、改善又は横ばいとなっており、今期の改善状況を維持できそうな勢いである。

（中小企業診断士　橋本大輔）

業　界　天　気　動　向　図

項目	売上				採算（経常利益）				資金繰り			
年 月 / 業種	7H～28 9年 月	10～12 月	1H～29 3年 月	4～6 月	7H～28 9年 月	10～12 月	1H～29 3年 月	4～6 月	7H～28 9年 月	10～12 月	1H～29 3年 月	4～6 月
製造業												
建設業												
小売業												
サービス業												

各項目については次により表示した。

区分	増加 好転	やや増加 やや好転	横ばい	やや減少 やや悪化	減少 悪化	大幅に減少 非常に悪化
DI値(前年同期比)	20.1～	5.1～20.0	5.0～△5.0	△5.1～△20.0	△20.1～△35.0	△35.1～
表示	快晴	晴れ	曇り	小雨	雨	豪雨

今期直面している経営上の問題点需要の停滞　（数値の左は前期構成比、右は当期割合を％で記す）

製造業		1位		2位		3位					
1位にあげる問題点		需要の停滞		製品ニーズの変化、製品（加工）単価の低下、上昇難				生産設備の不足・老朽化、熟練技術者の確保難			
前期	今期	30.0	21.9	―		15.6		13.3		12.5	
建設業		**1位**		**2位**		**3位**				**4位**	
1位にあげる問題点		官公需要の停滞		民間需要の停滞		請負単価の低下、上昇難、、事業資金の借入難				材料の確保難、従業員・下請業者の確保難など	
前期	今期	16.7	26.3	16.7	21.1	―		10.5		―	5.3
小売業		**1位**		**2位**		**3位**				**4位**	
1位にあげる問題点		大型店・中型店の進出による競争の激化		需要の停滞		購買力の他地域への流消費者ニーズの変化				店舗施設の狭隘・老朽化、販売単価の低下、上昇難	
前期	今期	22.5	24.4	20.0	19.5	12.5		14.6		―	7.3
サービス業		**1位**		**2位**		**3位**		**4位**		**5位**	
1位にあげる問題点		需要の停滞		利用者ニーズの変化		従業員の確保難		店舗施設の狭隘・老朽化		利用料金の低下、上昇難	
前期	今期	12.8	19.1	23.4	17.0	17.0	14.9	6.4	10.6	10.6	8.5